

4. その他

※市区町村認知症施策担当者各位

下記について、提供頂ける情報がありましたら、既存資料でも結構ですので、どうぞよろしくお願ひします。

関東信越厚生局
地域包括ケア推進課長

認知症対策好事例

1. 認知症初期集中支援チーム
2. 認知症地域支援推進員
3. 認知症カフェ
4. その他（若年性認知症の方向けのデイサービス）

（埼玉県 三芳町）

平成 28 年度に埼玉県若年性認知症デイサービス創業支援事業として、若年性認知症の方に対応するデイサービスを開始する事業者への補助を行った。

三芳町社会福祉協議会の「けやきの家」では、運営する子ども食堂において提供する食事を、若年性認知症の人に調理の補助を行ってもらい、また食堂にくる子どもたちと一緒に食事をしている。

子ども食堂と若年性認知症の方へのデイサービスの連動により、若年性認知症の方の作業から得られるやりがいや、居場所としての役割の創出が効果的に行えている。

*適宜行数を増やして作成してください。

※市区町村認知症施策担当者各位

下記について、提供頂ける情報がありましたら、既存資料でも結構ですので、どうぞよろしくお願ひします。

関東信越厚生局
地域包括ケア推進課長

認知症対策好事例

1. 認知症初期集中支援チーム
2. 認知症地域支援推進員
3. 認知症カフェ
4. その他（認知症サポーターの活動促進）

（埼玉県内各地の施設やオレンジカフェ）

認知症サポーターが地域で認知症の人を支える取組みを促進するために、認知症サポーター、介護施設事業者、地域包括支援センター、市町村職員等が合同で「回想法」を実施するための研修会を実施した。（7月26日、8月1日）

研修会では、回想法を実施する会場となる介護施設やオレンジカフェのスタッフ（施設職員や包括職員）と近隣の認知症サポーターが同一のグループとして研修を受講いただき、地域でお互いに協力していただくよう促した。

今後、施設や包括の職員がサポーターとの協力により、認知症の人へ回想法を実施していくことで、サポーターの活動の活性化と認知症の人の行動や精神状態の改善を進めていく。

*適宜行数を増やして作成してください。

※市区町村認知症施策担当者各位

下記について、提供頂ける情報がありましたら、既存資料でも結構ですので、どうぞよろしくお願ひします。

関東信越厚生局
地域包括ケア推進課長

認知症対策好事例

1. 認知症初期集中支援チーム
2. 認知症地域支援推進員
3. 認知症カフェ
- ④. その他（認知症サポーターの育成、高齢者の見守りシール）

（千葉県 松戸市）

4. その他（認知症サポーターの育成、高齢者の見守りシール）

【認知症サポーターの育成】（資料4-①②）

本市では、認知症サポーターによる認知症支援の地域人材として、市に登録して、松戸市あんしん一声運動に参加する認知症サポーターで、困っている人に声をかける「オレンジ声かけ隊」と専門職と一緒に実践活動をする「オレンジ協力員」で構成しています。

特に、オレンジ協力員については、活動したい人が認知症の方や認知症に関わるボランティア活動につながるよう平成28年度より松戸市社会福祉協議会に一部業務を委託し、施設での傾聴等を中心とした活動内容の充実を図っています。

【高齢者の見守りシールの活用】（資料5）

本市では、毎年約30名の行方不明高齢者が防災無線を利用した探索放送の活用していますが、平成29年度より、認知症などによって行方不明になった高齢者の安全を確保し、ご家族や介護をする方の負担を軽減することを目的に、見守りシールの支給を始めました。

特徴としては、衣類等に貼ったQRコードを発見者が携帯やスマートフォンで読み取ると、ご家族に瞬時にメールが送信されるシステムです。発見者と家族は個人情報相互に知ることなく、また行政や警察を介すことなく、迅速な対応ができるサービスです。

オレンジ協力員

希望者
を登録

- 要件：オレンジ声かけ隊のうちの希望者（登録制）
- 研修：任意受講の研修あり
- 活動内容：専門職と協力しながらの実践活動
声かけ活動（声かけ+できる範囲の手助け）
- 人数：433人（2016年度末）
→地区ごとの名簿を地域包括支援センターに配布

オレンジ声かけ隊

希望者・
希望団体
を登録

- 要件：認知症サポーターのうちの希望者・希望団体（登録制）
- 研修：任意受講の研修あり（研修内で自主的に活動報告）
- 活動内容：声かけ活動（声かけ+できる範囲の手助け）
※防災無線を活用した行方不明高齢者の捜索や、友人・近所への認知症の普及についても協力を依頼。
- 人数：登録者数3,441人（2016年度末）
登録団体数252（2016年度末）

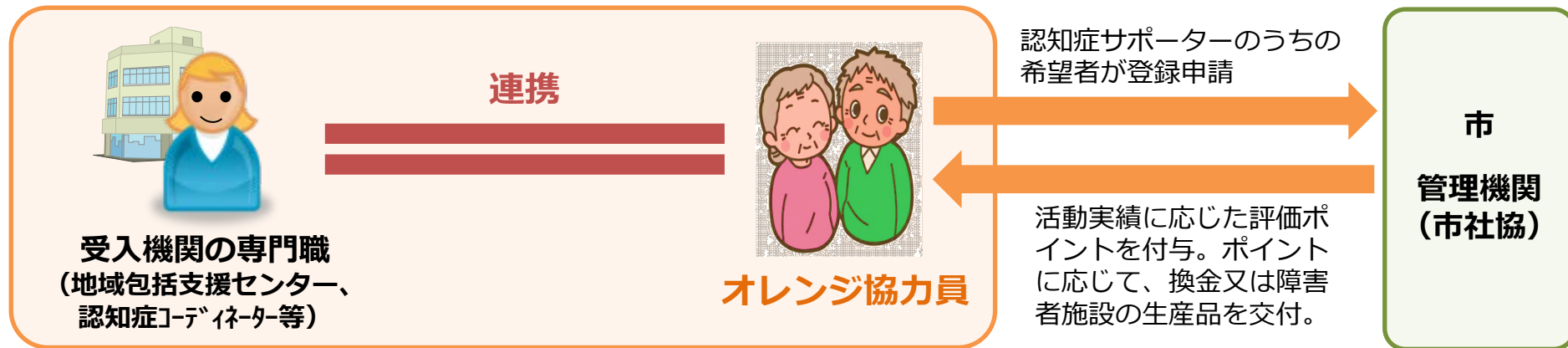
認知症サポーター

- 要件：1時間～1時間30分の講習受講（オレンジリング）
- 役割：認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守り、応援する応援者（定められた業務はない）
- 人数：19,042人（2017年度末までに21,000人を目指す）
※全ての市正規職員の受講を目指す。

※認知症コーディネーター：地域における認知症支援体制の構築に向けた活動に従事する医療・福祉・介護の専門職（ケアマネ、看護師等）。所定の研修の受講が要件。松戸市に102名いる。

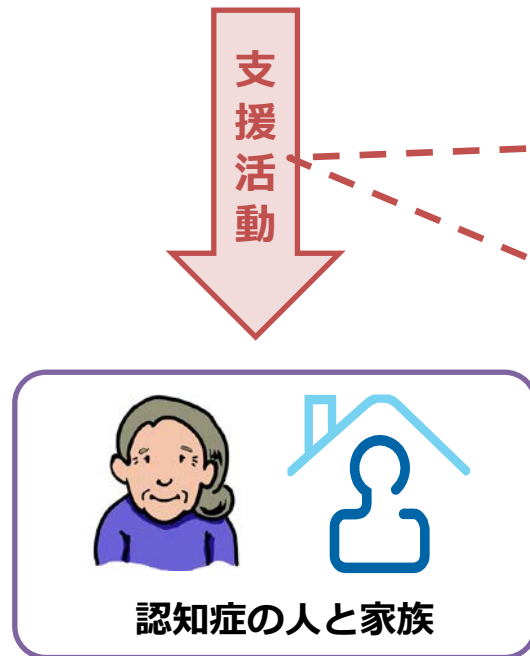
オレンジ協力員の取組

- 松戸市独自の取組として、認知症の人と家族を地域で支援していくため、専門職と連携して実践的な支援活動等を行うボランティア「オレンジ協力員」を養成（2016年11月：361人）。
- 地域包括支援センター・認知症コーディネーター等と協力した実践的活動を推進。



※受入機関

- ・市
- ・管理機関（市社協）
- ・地域包括支援センター
- ・指定を受けた以下の機関
 - * 認知症コーディネーターの会
 - * グループホーム
 - * 小規模多機能事業所
 - * 介護保険事業所・施設



【オレンジ協力員の実践的な支援活動の内容】

- 自宅、施設等での認知症の人・家族の話の傾聴（傾聴ボランティア）
- 認知症の人・家族の相談への対応
- 認知症の人の散歩、買物等への同行
- 認知症の人等の支援に係るレクリエーション等の指導・運営補助
- 認知症予防教室、認知症カフェ、サロン等の運営補助
- 見守り支援・安否確認 等

※ 上記の実践活動のほか、松戸市あんしん一声運動（手助けが必要な認知症高齢者等に一声をかけ、できるだけ手助けを行う活動）にも参加。



高齢者の見守りシールについて

松戸市では、認知症などによって行方不明になった高齢者の安全を確保し、ご家族や介護をする方の負担を軽減することを目的に、見守りシールの支給を始めました。

○見守りシールとは

家族や介護者が登録した注意事項などの情報を携帯電話などで読み取ることのできるQRコードが印字されたシールで、高齢者の衣服や靴、かばんなどの持ち物に貼って使用します。



<見守りシール見本>

見守りシールで何ができるの？

① 見守りシールを衣服などに貼付けます。



② 高齢者についての基礎情報の登録 <初期登録>

- ・見守りシールのQRコードを読み取り、高齢者の情報を登録します。
- ・登録情報：高齢者のニックネーム、生年月日、性別、身体的特徴、既往症、保護時に注意すべきこと、発見通知メールアドレス



③ 高齢者が行方不明になったら <伝言板に入力>

- ・介護者が伝言板にアクセスし、行方不明情報（日時、場所、発見時の注意事項等）を入力し、伝言板をスタートさせます。



④ 高齢者が発見されたら <伝言板のやり取り→お迎え>

- ・高齢者の発見者が見守りシールのQRコードを読み取ると、伝言板につながります。同時に介護者にQRコードが読み取られたことを知らせるメールが送られます。
- ・発見者が発見情報を入力・送信し、その後は伝言板を通じて介護者と発見者でやり取りをし、高齢者を介護者のもとへ引き渡します。



⑤ 引き渡し完了

- ・解決済の入力を行うことで、伝言板の内容は消去されます。

○支給の対象者

- (1) 認知症などによって行方不明となり、防災行政用無線を利用した探索放送を利用したことがある高齢者
- (2) 道に迷った、家が分からなくなってしまったなどにより、警察に連絡または保護されたことがある高齢者

※介護施設（グループホームを含む）に入居している方は支給の対象にはなりません。

○支給までの流れ

高齢者支援課または高齢者いきいき安心センターに相談

★見守りシールについての説明を受けます



高齢者支援課にて見守りシール支給申請の手続きをする

★手続きに必要なもの

- ①申請者の印鑑
- ②対象者および申請者の身分証明書（住所、氏名、生年月日が確認できるもの）



見守りシールの支給

★対象者1名につき、見守りシール50枚セット（耐洗ラベル40枚、蓄光シール10枚）を無料で配布します。

★ご希望の方は、職員が初期登録のお手伝いをいたします。

※添付の説明書は大切に保管してください

※支給は1度きりで、追加支給はありません。

※支給された見守りシールの他人への譲渡、販売、改ざん、目的外使用は認められません。

※対象者および申請者、連絡先となっている方の氏名、住所、連絡先、メールアドレスに変更が生じた場合は高齢者支援課までご連絡ください。



<問い合わせ先>

松戸市福祉長寿部高齢者支援課

〒271-8588 松戸市根本 387-5

☎ (047) 366-7343

※市区町村認知症施策担当者各位

下記について、提供頂ける情報がありましたら、既存資料でも結構ですので、どうぞよろしくお願ひします。

関東信越厚生局
地域包括ケア推進課長

認知症対策好事例

1. 認知症初期集中支援チーム
2. 認知症地域支援推進員
3. 認知症カフェ
4. その他（徘徊模擬訓練）

（千葉県 船橋市）

認知症対策の一つとして市医師会が中心となり関係者による認知症シンポジウムを開催していたものに加えて、平成28年度から「認知症の人にやさしい船橋を目指す実行委員会」として、市長を大会会長とし、地域の見守りと支え合い体制を進めるため、市民の皆様に参加していただく事業としての徘徊模擬訓練を5つの日常生活圏域で実施し、うち、1か所はメイン会場としての実施となる。

開催は地区の地域ケア会議が中心となり、実行委員会を立ち上げ、開催している。

各地域包括支援センターに配置されている、認知症地域支援推進員が支援、指導しながら地区社協、民生委員、町会・自治会、医療・介護関係者などと共に地域での取り組みとして、実施している。

平成28年度船橋市認知症高齢者徘徊模擬訓練

- 10月1日（土） 西部「法典地区」参加者72名
- 10月28日（金） 北部「松が丘地区」参加者73名
- 11月2日（水） 東部「前原地区」参加者121名
- 11月19日（土） 中部「高根台地区」参加者78名
- 12月3日（土） 南部「本町地区」メイン会場183名

船橋市認知症シンポジウム

平成28年12月3日（土）来場者数231名

*適宜行数を増やして作成してください。

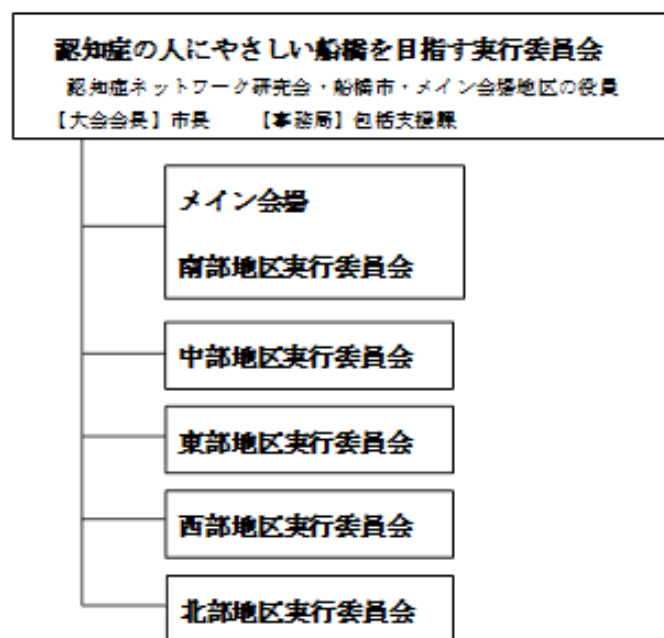
認知症の人にやさしい船橋を目指す実行委員会

1. 概要

24 地区コミュニティごとに徘徊模擬訓練を実施する。各地区の地域ケア会議が中心的な役割を担う。うち、1か所をメイン会場とし、認知症シンポジウムと同日で開催し、認知症に関する施策のPRなども行う。

2. 平成 28 年度の実施予定

<組織図>



<スケジュール>

- 9/3 地域包括ケアシステム推進講演会（法典公民館）
「地域で認知症の人と家族を支える」
- 10/1 法典地区（西部）徘徊模擬訓練実施
- 11/2 前原地区（東部） //
- 10/28 松が丘地区（北部） //
- 11/19 高根台地区（中部） //
- 12/3 本町地区（南部） // **【メイン会場】**
 - 開会式 ～北口デッキ
 - 警察通報訓練（SOS ネットワーク・ひやりハット）
 - 声かけ実演（寸劇、ロールプレイ）
 - 徘徊声かけ訓練
 - ・山口横町ルート、金親商店ルートの2ルート設定
 - ・徘徊高齢者役、サポーター役がルート徒歩
 - ・市民が声かけを実施
 - デッキではブースを設置し、PR 事業を行う

徘徊
模擬
訓練

3. 平成 29 年度以降の取り組み

- 28 年度に実施しなかった地区で徘徊模擬訓練を実施 →日常生活圏域 1 か所ずつ、計 5 地区を新規で実施
- うち 1 か所をメイン会場として、認知症シンポジウムと同日に開催

認知症の人にやさしい船橋を目指す実行委員会

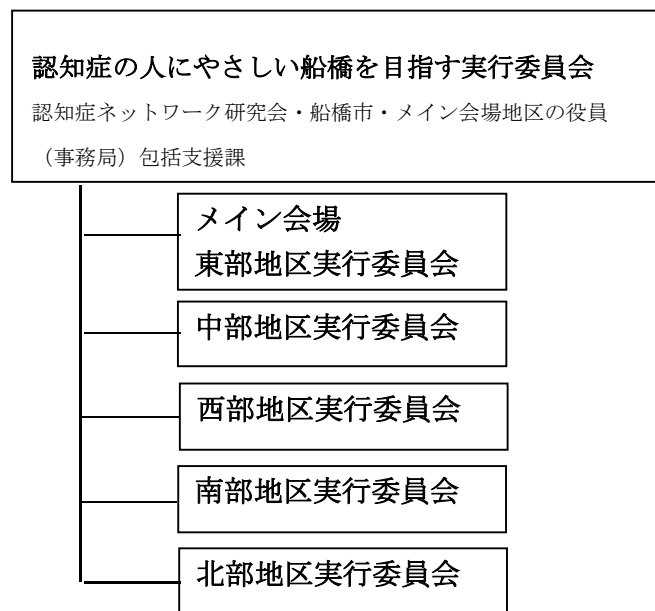
1. 主な事業

認知症の高齢者や認知症が疑われる人に対しての早期からの適切な対応や診断、認知症についての正しい知識と理解に基づく本人や家族支援の更なる充実を図るとともに、地域の見守りと支え合い体制を進めるため、市民の皆様に参加していただく事業を実施する。

平成 28 年度から 24 地区コミュニティごとに徘徊模擬訓練を実施する。各地区の地域ケア会議が中心的な役割を担う。うち、1 か所をメイン会場とし、認知症に関する施策の PR などを行う。

2. 平成 29 年度の実施予定

<組織図>



<スケジュール>

- 9/29 坪井地区（北部）徘徊模擬訓練実施
- 10/4 夏見地区（中部） //
- 10/22 湊町地区（南部） //
- 10/28 習志野台地区（東部） // 【メイン会場】

- 開会式 ～JuJu 広場
- 警察への通報・届出方法・留意事項の説明
- 徘徊高齢者家族支援サービスの説明
- 声掛け訓練
 - ・北習志野駅コース、習志野台団地コースの 2 コース
 - ・徘徊高齢者役がコース徒歩
 - ・声掛け役がとどまる
- JuJu 広場ではグループディスカッションを行う

徘徊
模擬
訓練

- 11/18 葛飾地区（西部）徘徊模擬訓練実施

3. 平成 30 年度以降の取り組み

- 29 年度に実施しなかった地区で徘徊模擬訓練を実施 →日常生活圏域 1 か所ずつ、計 5 地区を新規で実施
⇒平成 32 年度で全 24 地区実施
- うち 1 か所をメイン会場として開催

※市区町村認知症施策担当者各位

下記について、提供頂ける情報がありましたら、既存資料でも結構ですので、どうぞよろしくお願ひします。

関東信越厚生局
地域包括ケア推進課長

認知症対策好事例

1. 認知症初期集中支援チーム
2. 認知症地域支援推進員
3. 認知症カフェ
4. その他（ 認知症予防教室 ）

（千葉県 大多喜町）

認知症予防教室を開催している市町村は多いかと思いますが、大多喜町は地域との連携による教室運営をしており、他市町村に好事例として提供できるかと思われまますので紹介します。

特徴① 各地域の高齢者サロンを主催している介護予防ボランティアが、町主催の認知症予防教室の教師役ボランティアも兼ねています。このため各地域の高齢者サロン参加者で認知機能が低下した方を認知症予防教室へ招待して認知症予防に取り組んでもらいます。そして認知機能が向上し、教室を修了した方は地域サロンに戻ります。

また認知症予防教室等の介護予防教室は年数を重ねることで徐々に参加者が減り易い傾向がありますが、地域で活動している信頼のおけるボランティアから招待されることから、毎年参加者を入れ替えているにも関わらず、毎年募集定員に達します。

特徴② 認知症予防教室担当は地域包括職員であるため、地域における認知症ケースの相談先としても機能しています。また多様なボランティアが在席しているので様々な相談に対応できています。

ポイントは、認知症予防教室を通じた「地域と地域包括」の連携です。連携することにより認知症予防活動と認知症ケースへの円滑な取組みに繋がっています。

* 適宜行数を増やして作成してください。

さて本題です。

《大多喜町認知症予防教室の特徴》

- ① 地域高齢者サロン主催ボランティアが、認知症予防教室の教師役ボランティアも兼ねています。このため地域と町主催の認知症予防教室の連携が図れることによる多様なメリットが生まれています。
- ② 教室担当が地域包括職員であるため、地域における認知症ケースの相談先としても機能しています。また多様なボランティアが在席しているので様々な相談に対応できています。

< 認知症予防教室と地域の連携イメージ >

地域の
つながり

地域の介護予防ボランティア
兼
認知症予防教室ボランティア



認知症予防教室への参加勧誘
高齢者への声かけ・見守り
= 高齢者の認知症予防と対応力強化
と地域における信頼関係の熟成

地域の高齢者サロン



脳トレ等のレクや介護予防体操の
紹介・参考の場としても機能

地域認知症ケースの相談先として

大人の脳トレ教室

町職員 (地域包括)



認知症の状況に合わせた取り組み。

認知機能が低下した方は認知症予
防教室へ。
認知症予防教室修了後は地域に。

認知症などの相談の場としても



- ・地域包括職員が教室を担当しています。
- ・また、ボランティアのメンバーは、元主任ケアマネジャーや元保育園長、県庁職員、町議員さん等、多職種です。大概の問題は教室に来るとバッチリ解決！！



※市区町村認知症施策担当者各位

下記について、提供頂ける情報がありましたら、既存資料でも結構ですので、どうぞよろしく申し上げます。

関東信越厚生局
地域包括ケア推進課長

認知症対策好事例

1. 認知症初期集中支援チーム
2. 認知症地域支援推進員
3. 認知症カフェ
- ④ その他（声かけ訓練（燕市））

（新潟県 燕市）

別紙のとおり

* 適宜行数を増やして作成してください。

燕市オレンジだより No.3

オレンジだよりは燕市の認知症総合支援事業の広報誌です

燕市各地の取り組みをご紹介します。

2016年11月30日発行

燕市認知症地域支援推進員

〒959-0133 燕市吉田西太田 1934 燕市長寿福祉課内

0256-92-1111 (内線 2562)

今年度の燕市の目標の一つである『(認知症)カフェを増やそう』、『認知症の人や家族が集える場所を増やそう』の状況などをお知らせします。これらの居場所づくりには「ホッとできる場所」、「多くの人とつながることが出来る場所」など、様々な思いが込められています。



オレンジリングカフェ

現在、燕市役所を入れて13か所でカフェが開催されています。

不定期や月1回開催の所が多いのですが、毎日開催、月～金開催でカフェが行われている所もあります。ぜひ一度、お近くのカフェへ足をお運びください。

(詳しくは推進員、最寄りの地域包括支援センターまでお問い合わせください)



	一般	スタッフ	合計
5月12日	35	19	54
6月9日	33	28	61
10月6日	52	27	79
計	120	74	194

	常設	定期	不定期	合計
燕地区	0	1	3	4
吉田地区	0	2	1	3
分水地区	3	2	1	6
計	3	5	5	13



次回開催は
3月です!!

個人で開催されています

白ふじの里のお祭りに合わせてカフェを開催しました



市役所開催のオレンジリングカフェで、認知症サポート医から認知症の予防について、ご講演をいただきました。



土日以外は開催しており、ご近所さんも常連さんです



毎月1回開催しており、施設のみならず、おもてなしいたします

認知症介護者のつどい

認知症の人を介護している人、介護していた人などを対象に気軽に集える場所、自由に話せる場所、共に励まし合い、交流できる場所を目指し4月から隔月で、

燕市民交流センターで開催しています。

年度内にあと2回開催予定です。



	一般	スタッフ	合計
4月	8	7	15
6月	8	4	12
8月	4	5	9
10月	6	8	14
計	26	24	50

スタッフとして認知症キャラバンメイト、地域包括支援センター職員などが参加しています。

認知症になっても安心して出かけられるまち、燕市を目指して

燕市認知症サポーター



今年も燕市各地で、認知症の人の見守り・声掛け・捜索、訓練・体験が行われ、合計362人の方からご参加いただいています。

誠にありがとうございました。

H28年10月16日 燕地区

燕東小学校及び周辺地区、宮町・燕大通り商店街

主催：燕市地域包括支援センターさわたり



H28年11月19日 吉田地区

燕市粟生津体育センター

主催：粟生津地区協議会



H28年11月5日 燕地区

小池公民館及び周辺地区

主催：燕市地域包括支援センターおおまがり



	一般	スタッフ	合計
分水小学校区	50	50	100
燕第一地区	27	42	69
燕東コミュニティ	30	50	80
粟生津地区	51	62	113
合計	158	204	362



H28年11月末 燕市認知症サポーター

H28年8月2日 分水地区

分水福祉会館及び周辺地区

主催：分水小学校区まちづくり協議会

5,377人 (今年度の受講 589人)

燕市では平成27年3月から認知症の人の見守り・声かけ・捜索訓練が行われ、延べで682名の方が参加されています。

まちで気になる方を見かけた場合にどの様に声をかけたら良いのか？ 実際に道に迷っている認知症の人に出会った場合にどうしたら良いのか？

地域の人達と会社やお店、警察・消防、地域包括支援センターや介護・福祉の専門職が協力して、安心して暮らせるまちづくりが進められています。

おかえりつぱめーる

まだ帰って来ない、行方がわからないなど万が一の場合に警察署から市役所に届いた情報を、事前に登録した方へ電子メールで伝える仕組み作りを進めています。

その名称を、オレンジリングカフェにお越し頂いた方から投票で選んでいただき、**おかえりつぱめーる**に決まりました。

あわせて、帰って来なくなる心配がある方の見守り・事前登録制度も進めています。

※市区町村認知症施策担当者各位

下記について、提供頂ける情報がありましたら、既存資料でも結構ですので、どうぞよろしくお願いします。

関東信越厚生局
地域包括ケア推進課長

認知症対策好事例

1. 認知症初期集中支援チーム
2. 認知症地域支援推進員
3. 認知症カフェ
- ④ その他（ 認知症サポーター養成 ）

（山梨県 韮崎市）

今年度、認知症地域支援推進員情報交換会で活動報告を依頼した2市の資料を添付します。

韮崎市：認知症サポーターの活躍の場

*適宜行数を増やして作成してください。

認知症サポーターとキャラバン メイトの活動支援の工夫

～活躍できる場づくりとスキルアップ等との取り組み～



菫崎市地域包括支援センター

保健師

古屋

亜由美



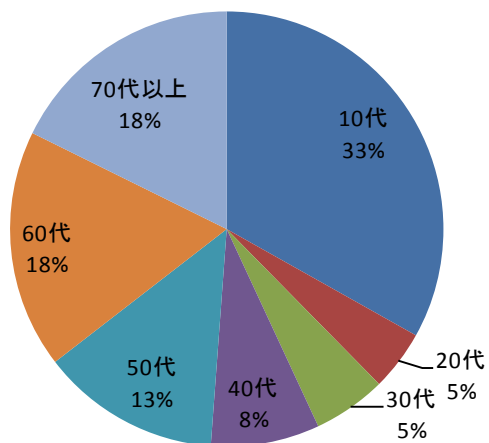
認知症サポーター養成についての現状

蕪崎市認知症サポーター養成数（H20～）

年度 年代	H20			H21			H22			H23			H24			H25			H26			H27			H28			通算		
	女	男	計	女	男	計	女	男	計	女	男	計	女	男	計	女	男	計	女	男	計	女	男	計	女	男	計	女	男	計
10代	18	17	35	0	0	0	0	0	0	4	0	4	48	44	92	157	154	311	140	121	261	121	147	268	168	183	351	656	666	1,322
20代	2	2	4	4	1	5	4	2	6	24	49	73	10	10	20	6	1	7	11	5	16	11	9	20	12	16	28	84	95	179
30代	0	0	0	2	1	3	4	2	6	17	54	71	21	17	38	14	5	19	11	6	17	15	6	21	23	20	43	107	111	218
40代	6	0	6	6	4	10	9	4	13	30	25	55	35	14	49	17	5	22	27	6	33	54	17	71	50	15	65	234	90	324
50代	37	1	38	40	10	50	12	2	14	70	34	104	40	24	64	27	7	34	41	9	50	57	21	78	85	16	101	409	124	533
60代	53	4	57	111	54	165	18	6	24	38	15	53	54	35	89	36	14	50	28	5	33	33	12	45	148	44	192	519	189	708
70代以上	26	1	27	142	54	196	75	59	134	21	11	32	51	27	78	32	14	46	13	1	14	42	7	49	90	41	131	492	215	707
合計	142	25	167	305	124	429	122	75	197	204	188	392	259	171	430	289	200	489	271	153	424	333	219	552	576	335	911	2,501	1,490	3,991

（平成29年6月1日現在）

認知症サポーター 年代別割合



養成講座開催回数

年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	合計
回数	4	4	5	16	18	12	11	16	23	109

キャラバン・メイトの現状



◎登録者数

- ・ 韮崎市の登録者数（有資格者） 45名
- ・ 実際に活動できるキャラバンメイト 15名

◎フォローアップ体制

- ・ キャラバン・メイト養成講座は市独自では行っていない
⇒ 県の養成講座を活用
- ・ フォローアップ研修 年1回開催
(医師や認知症ケア専門士による研修)

- ・ キャラバンメイト連絡会 年1～2回開催



現状と課題



◎キャラバンメイト活動・認知症サポーター養成講座
からみえた課題

- ・キャラバンメイトの固定化
- ・認知症サポーターが、何か活動したいという思いがあっても活躍する場がない、何をしてもよいかわからない
- ・正しい知識の普及啓発が不十分 ⇒重症化してからの相談



現状と課題

◎認知症施策全体の課題

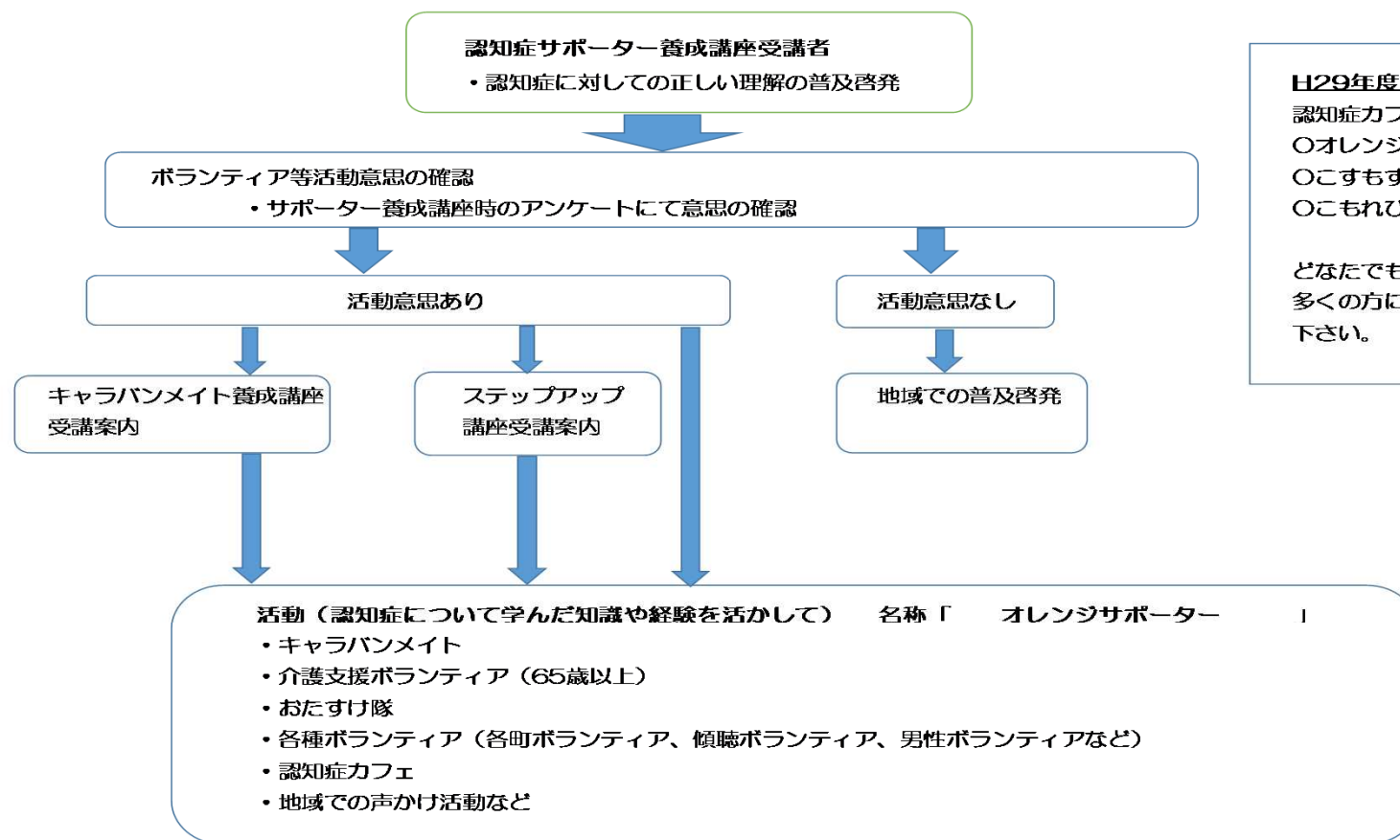
- ・ 独居、高齢者世帯の増加に伴い地域での見守り体制に限界を感じる地区がある
 - ⇒ ・ 民生委員さんの訪問の限界
 - ・ 若い世代と同居しているため支援からまれてしまう世帯
 - ・ 介護申請しなくてもちょっとした見守り、支援があれば生活できる
など…

新たな施策を展開するべきか…??



今年度の取り組み

健やか いきいき安心長寿のまち 荊崎 ～ 認知症施策 ～



H29年度新規事業
認知症カフェ（市内3ヶ所）
○オレンジカフェ・虹
○こすもすカフェ
○こもれびカフェ

どなたでも参加可能です。
多くの方に声をかけて
下さい。



それぞれの活動で出てきた地域課題等を集約し、「荊崎市認知症支援ネットワーク協議会」に提言。新たな資源開発や
仕組みづくりを行い、認知症になっても住みやすいまちづくりを目指す。

※市区町村認知症施策担当者各位

下記について、提供頂ける情報がありましたら、既存資料でも結構ですので、どうぞよろしくお願いします。

関東信越厚生局
地域包括ケア推進課長

認知症対策好事例

1. 認知症初期集中支援チーム
2. 認知症地域支援推進員
3. 認知症カフェ
- ④. その他（①認知症の啓発、周知用パンフレット
②相談対応用（ケアパス）パンフレットの作成）

（長野県 諏訪市）

①認知症啓発、周知用パンフレットをサロン等住民の集まりの場で保健師が配布し、介護予防を含め周知していくことができるようになった。内容の中に諏訪市独自のすわっこいきいき体操やサロンの紹介を入れ、予防に向けた取り組みを紹介している。

②認知症の相談用パンフレット（ケアパス）を市役所や包括支援センターの窓口で認知症の相談に来られた方に配布し、支援方法等を説明できるように作成した。従来からある認知症のパンフレットと一緒にケアパスを配布することで、諏訪市の資源を具体的に知ってもらえるようになった。

* 適宜行数を増やして作成してください。